

# 知事、是正勧告を拒否

## 辺野古承認取り消し

# 国交相に質問状

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画をめぐる、石井啓一国土交通相が翁長知事の承認取り消しを取り消すよう求めた是正勧告に対して、県は6日午前、「適法だ」と考えていることから、取り消し処分を取り消す考えはない」とする拒否の文書を送付した。石井国交相が、審査請求と執行停止を申し立てた沖縄防衛局を「私人」と認める一方で、代執行手続きでは防衛局を「行政機関」と位置付けていることの整合性などについて5項目にわたる公開質問状も石井国交相宛てに送付した。県が国に公開質問状を送るのは異例。県弁護団は6日午前に開いた翁長雄志知事の会見で、来月にも開かれる代執行訴訟の口頭弁論に翁長知事が出廷し、意見陳述することを検討していることを明らかにした。



翁長知事は6日午前10時半、会見を開き、是正勧告を拒否する文書を送ったことについて「第三者委員会の検討結果を受けて精査した結果、取り消し得べき瑕疵があるものと認め、取り消した。取り消しは適法と考えていて、勧告に従うことはできない」と述べた。

公開質問状を送付したことについては「沖縄防衛局長のみならず国交相までも自らの都合に応じて立場を使い分けている。警視庁の機動隊員を大量投入するなど、なりふり構わず移設を強行しようとしている。政府は通り一遍の言葉ではなく、国民、県民に対し明確に説明責任を果たすべきだ」と述べた。公開質問状は①辺野古埋め立て事業は日米両政府間の合意の履行として、閣議決定に基づき実施されている「国家の事業」だと考えるがどうか②「国家の事業」なら、沖縄防衛局の埋め立て申請は必然的に国(固有の資格)としての申請と理解されるのが自然だ。なぜ「私人」の申請と理解されることになるのか③国交相は一方で審査請求での解決が可能と考えていて、他方では代執行の手續きによらなければ解決を図ることが困難としている。なぜこのような矛盾した判断がなされているか―など5項目を尋ねている。

石井啓一国交相宛てに公開質問状を送ったことを発表する翁長雄志知事

—6日午前10時半すぎ、県庁